

< 記事一覧 >

1. あいち防災リーダー会“福井豪雨災害現場”へ！
2. あいち防災リーダー会の1員として（会長代行 岩崎政弘）
3. 役員会（5・7月）のご報告：役員会は今？（事務局長 蜂須賀英博）
4. 各ブロックからの情報発信
 - ①災害に強い町づくり（知多ブロック／東&永谷）
 - ②海部ブロック定期総会の報告（海部ブロック／遠山）
 - ③「東海地震は3日後に起こります！」と言われ、あなたなら？（東三河ブロック／山口）
5. 防災よもやま話／東海・東南海地震の驚くべき被害量（名古屋大学 福和伸夫）

< 記事 >

あいち防災リーダー会“福井豪雨災害現場”へ

太田会長をはじめ17名（名古屋ブロック4名・西三河ブロック5名・知多ブロック2名・尾張ブロック2名・海部ブロック4名）は8月3日（火）福井県福井市を訪れ、福井県社会福祉協議会（午前中・写真左）へ、あいち防災リーダー会が募金活動で集めた義捐金の一部（10万円）を寄贈し、その後、福井県鯖江市に移動し救援ボランティア活動を行いました。（河和田地区の個人住居・午後・写真右）



福井県社会福祉協議会にて



救援ボランティア活動

この福井県豪雨災害救援ボランティア活動につきましては、いち早く個人的にまたは有志で行動に移されたリーダー会会員もみえると思いますが、今回の参加者は初めての会員もあり貴重な体験となりました。なお参加者の声を下記にまとめました。

……参加者より一言……

☆ボランティアを受け入れる水害対策本部の細かい気配りに感心しました。現場から帰る途中、住民の方々から感謝の言葉を受け、気持ち良く帰ることができました。

☆ 百年の旧家も自然の力に負けた姿に接し、その怖さを改めて感じ如何に備えるか思う。



.....参加者より一言／続き.....

- ☆ 伊勢湾台風の惨状を回想し、後片付けを。あなたの町に1200mmの大雨が降ったら？
- ☆ 防災リーダーなら一度は「被災地の中心で活動しよう！」愛がこだまする。
- ☆ 実戦初参加で実務はさることながら、水害対策本部スタッフによる活動前・後の暖かな心くばりが大いに参考になりました。
- ☆ 河和田地区の復旧状況は50～60%程、まだまだ支援が必要です！貴重な体験を地域で生かそう。
- ☆ 被災者は泥との戦いいつ終わる。汗流すボランティアの心意気。かき氷疲れも汗も吹き飛ばす。
- ☆ やれたかな？ やってほしかった事、やった事、時間足りたかな？
- ☆ 伊勢湾台風の時、床上30cmの経験しています。今回活動先方の家の様子に自分の実家とが重なり、水の怖さを思い出しました。
- ☆ ボランティアをさせて頂き、ご主人(家の方)と別れる時のお顔(涙が・・・)、「ありがとう」の一言が嬉しかった。
- ☆ 「和を以って貴と為す！」初めて参加してあいち防災リーダー会の心を知りました。
- ☆ 矢作川に比べたら小さな川が隣りにあるだけなのに、あんな大変なことになっていた。自然の力は人間の力比べたら大きな大きなものだ実感しました。
- ☆ リーダー会にとっては価値&意義のある3時間(ボランティア活動・17人併せると51時間！)でした。“絵に描いた餅”より、現場を見る事の大切さを知りました。
- ※ まだまだ参加者の声はありますが、編集の都合で割愛させて頂きました。

あいち防災リーダー会の1員として 会長代行(尾張ブロック) 岩崎政弘

平成14年8月から受講し12月に修了し、尾張・海部ブロックの世話人として、あいち防災リーダー会の立ち上げのために数回の世話人会を開催し、白熱の議論を交わし、会の方向付け・会則の決定・すべての事が第一歩であるため各世話人会が真剣に迷い、悩み、その結果をもって設立総会を開催し、それを受けて、地区(一宮市、尾西市、木曾川町)の“リーダー会いちのみや”の設立と、1年間仕事の半分を費やし、どうにか全リーダーが働きやすい環境を作る事が出来ました。

太田会長はじめ役員全体が一丸となり2年目をめざし活動を進めています。

また、海部ブロックの独立を支援し各ブロックの地域性を活かした取り組みを全リーダーで協力したいと考えています。

尚、5年計画でリーダー会でのリーダー会の意に沿った教育の具申等、リーダーのスキルアップ、広く社会に認知してもらうためのリーダーの知識の向上、地域社会での協働するためのリーダー資質等各リーダーの意見を広く取り上げ、2年目を行動したいと考えています。防災局によって得た知識を地元・市・町に反映すべく、日々研鑽しようではありませんか、全リーダーの発憤を期待します。



役員会は今？

事務局長 蜂須賀博英

役員会でどのような話し合いがされているのか、会員の皆さんにお知らせする機会をいただきましたので、主な審議事項についてお伝えします。

<5月役員会>

1. 16年度、役員会の開催日を決めました
7/11、9/12、11/14、1/9、3/13
会 場:岡崎市福祉会館を予定
役員会の議案は運営委員会で検討し、各事務局に提示する。
2. 会計マニュアルの作成
会計処理についてマニュアルを作成すべきだ。
会計小委員会で案を作成する。
3. 福和伸夫先生 “参与”として、APLA名で辞令を発行する。
4. 防災リーダーのユニフォーム
費用は県で獲得済なので、“ベスト”作成の方向で、県へ要請

<7月役員会>

1. 定期総会(4月25日)の案内送付費用について
各ブロックから総会案内を送付したが、本来事務局のやるべき仕事を担当したので通信費を負担する。
2. APLA通信について
印刷、配付作業は各ブロックで対応する。
創刊号は枚数が多く、送料も掛かる。
次号からは、その点を考慮する。
3. 臨時総会について
11月頃開催を目標にして会則の検討を総務委員会で行う。
(11/20か11/21)
4. 平成16年度あいち防災カレッジへの対応 (会長受理)
愛知県防災局防災課より「カレッジ講座開催の対応とDIGへの協力依頼」あり
5. 地域講座「DIG」への協力
ファシリテーター及び研修要員を募集。
基本的には自ブロック内を担当し、人手不足ブロックへは応援に行く。
受講者のリーダー会への質問等への対応をする。(休憩時間)
各ブロック2名くらいずつお願いしたい。(終日または交替で)
「あいち防災リーダー会」への入会の呼びかけをする。
入会案内の作成
ロビーに、活動内容をB紙で掲示する。

ニュースレターより抜粋した地域活動等を配付する。
各ブロックの活動をB紙で掲示する。

6. 伊勢市の花火大会でのボランティア本部運営参加について
7月17日(土) 担当 増田副会長
 7. 防災啓発グッズのリストアップについて
事務局で一覧表を作成する。
 8. ユニホーム(ジャンパーor ベスト)について
県が、700枚発注予定(約2ヶ月かかるとの事)
 9. 慶弔規定の検討
事務局で検討し、次回役員会に提案
 10. 愛知県総合防災訓練参加企画について
研修委員会で原案作成
- 以上のようなことですが、詳細につきましてはブロック代表にお尋ねください。

災害に強い町づくり

いつ来てもおかしくない地震

(東海地震、東南海地震、南海地震)

に対して皆さんの備えは大丈夫ですか。

平成14年度、県の防災カレッジを修了し「あいち防災リーダー」として地域に戻りましたが何をしてもよいのか本当に困りました。



半田市 東 勝



半田市 永谷 重勝

一念発起、カレッジで学んだ顔の見える関係を実行に移すことにしました。週3～4日、公民館(神戸)かよいを続け、一ヶ月ほどすると区の顔と称する人達と挨拶、話し合いが始まり、防災に関しても段々と理解が深まりました。

まず手始めに、昭和58年設置以来ほとんど開けたことのない防災倉庫を役員の人達、立会いで扉を「開けゴマ！」内部備品の貧弱さに皆が驚き！これではダメだと認識。

半田市の場合、各区の自主防災会に助成金支給制度があるので、早速、役員の人達と協議しこの制度で防災備品の充実を図ることにしました。

購入品のリスト作りなどは、我々防災リーダーに一任され、現在も備品の充実に資料などを参考としたり、防災の専門家を招き講座の開催を計画しています。

平成15年より「あいち防災リーダー」は、成岩三区コミュニティー推進協議会内、にある防災・交通部会の協力委員に任命されました。今後、ますます地域の皆さんと協力し合い、半田市で一番災害に強い町づくりに邁進したいと思います。

【現在の「市、区」と協働の活動紹介】

- ①毎月一回の資源回収手伝い
- ②市・区の自主防災訓練への支援
- ③自主防災倉庫の点検、整備（年三回）
- ④各教室のガラス飛散防止テープ貼り（小学校にて過去二回実施、今後も続ける。）
- ⑤毎年盆踊り大会の準備に協力。非常用のガソリン発電機の点検を兼ねた試運転で、ワタ菓子コーナーの電源を供給。（ビールを飲む暇もなく頑張っています。）
- ⑥河川、公園周辺の草刈、ゴミ集め
- ⑦その他、年間行事には積極的に参加していく
- ⑧ボランティア・コーディネーター養成講座のスタッフ

以上、これからも「災害に強い町づくり」目指して頑張ります。（東&永谷）

海部ブロック定期総会の報告

7月17日(土)13:00より、津島消防本部会議室にて太田あいち防災リーダー会会長を来賓としてお迎えし、第一回海部ブロック定期総会を開会いたしました。

太田会長より「リーダー会の役割」「会則の見直し」等リーダー会の現況報告をいただき、高木ブロック代表からは海部ブロックは一步一步着実に進化している、これは会員の理解と協力の賜物と感謝いただきました。

議題は、①海部ブロックの年間活動計画について(研修・広報) ②ブロック事務通信費について、各担当責任者より趣旨説明等報告をして出席者の真剣なる審議を戴き、全員の承認を取り付けました。

後半のスキルアップ研修は東嶋研修副部長の進行で「防災リーダーとはどんな人」をテーマとして「ワークショップ」方式で約一時間、全員で喧喧諤諤と「表現」「議論」「結論」の流れをB紙にまとめた、が結論付けは大変難題であった、でも夫々の足元は確認できたと考えます。

盛会のうちに15:30に散会しました。

海部ブロック 遠山正博



防災よもやま話

No. 2 東海・東南海地震の驚くべき被害量



南海トラフでの地震3兄弟の驚くべき被害量

私たちは、90年～150年程度の間隔で、南海トラフでの巨大地震に見舞われている。南海トラフには、東から東海地震（以前は駿河湾地震と呼ばれていた）、東南海地震（以前は現在の東海地震と東南海地震とを合わせて東海地震と呼んでいた）、南海地震の3つの震源域がある。この地震3兄弟は気まぐれで、ある時は3兄弟と一緒に騒ぎ、ある時はバラバラに地震を起こす。現在、すでに、前々回の安政の地震から150年、前回の昭和の東南海地震から60年が経っている。特に、駿河湾域では150年分の歪みが蓄積されているおり、今後30年の地震発生確率も84%と評価されている。お隣の東南海地震の震源域は、現時点では58%程度であろう。いずれにせよ、今世紀前半に3兄弟が大騒ぎをすることは間違いない。中央防災会議では、これらの地震の被害予測を行い、その結果を公表している。その被害ボリュームを阪神・淡路大震災と比較すると表のようになる。

	死者数	建物全壊棟数	被害額
阪神・淡路大震災	約6,400人	約105千棟	10兆円
東海地震	約9,200人	約460千棟	26-37兆円
東南海・南海地震	約17,800人	約629千棟	38-57兆円
東海・東南海・南海	約24,700人	約940千棟	53-81兆円

おおざっぱに言えば、3地震の被害を合算すると、兵庫県南部地震による被害に比べ、最悪、死者は4～5倍、建物被害と経済被害は10倍である。ちなみに、我が国の平成16年度の歳出予算は82.1兆円、税収は41.7兆円、一般歳出は47.6兆円であり、我が国の税収の2年分の被害が生じる可能性がある。地震対策が我が国の安全保障上の最重要課題であることが理解できる。被害の主たる原因は、耐震性の劣る既存不適格建物の存在にある。我が国では、不遑及の原理により、現行の耐震基準は古い家屋には適用されな。このため、耐震性に問題の残る家屋は全国に1300万軒も存在する。これらの建物の耐震化が我が国の将来を左右する。

駿河湾域を震源とする東海地震は、1978年に施行された大規模地震対策特別措置法により位置づけられており、直前予知を前提とした警戒宣言時の対応方針が定められている。この対象地域として指定されているのが地震防災対策強化地域であり、2002年4月に現状の地域が拡大指定された。一方、東南海地震

と南海地震については、震源域が海域となるため、早期検知のための観測網の整備が困難であり、備え（防災対策）を中心とした対応となる。両地震に対して防災対策を推進するために、2002年7月に東南海地震・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法が公布され、2003年12月に東南海・南海地震防災対策推進地域が指定された。強化地域と推進地域には、4000万人が居住し、1000万軒の家屋が存在する。陸上自衛隊、常備消防の人数は何れも15万人、人的な不足は明らかである。我が国の国民の三分の一が被災する。国民全員が、自衛隊員や消防士の救命・救急・消火技術を学び、自らの命を自ら守ると共に、地域の中で互いに助けあえるよう、自助・共助の精神を身につける必要がある。これが地震防災に対する地域力となる。

万一、3地震が連動して発生すれば、兵庫県南部地震のような局所的な被害とは全く異なり、関東地域から九州に至る広域が同時に被災する。このような広域の被害に対しては、各県での対応では限界があり広域の連携が不可欠となる。一方、各地域では、他からの助けが無くても自律的に対処する力が必要となる。そのためには、少しでも被害を減らす事前の備えが必要になる。事前の防災対策、発災後の応急対応、共に活躍が期待されるのが防災リーダーである。自主防災会、消防団、ボランティアの人たちと力を合わせ、防災対策、発災後の救命・救急、復旧・復興活動に全力を尽くしたい。

……………広報部・編集後記(海部ブロック／百合草)……………

連日の猛暑に襲われリーダー各位もかなりバテてはいませんか？

7月は新潟・福井県で豪雨災害があり、かなりの被害がありました。リーダー各位も今まで「東海地震」にとらわれていたのではないのでしょうか？災害は地震だけではありません！いろいろな災害を想定して啓発活動を行いましょう。

さて、次号(3号)の編集担当は西三河ブロックの間瀬トシ子さんです。各ブロック広報担当もサポートいたしますのでよろしくお願いします。

